

第2回 酒田港カーボンニュートラルポート（CNP）協議会 議事概要

日時： 令和4年12月23日（金）13:30～15:30

場所： ホテルリッチ&ガーデン酒田 1階 スカンジナビア

【議事概要】

- 「第1回酒田港 CNP 協議会での意見等について」及び「酒田港 CNP 形成計画 温室効果ガス排出量の推計と削減目標について」事務局（山形県）より説明した。
- 「今後の予定」事務局（東北地方整備局酒田港湾事務所、山形県）より説明した。
- 次回は、3月17日（金）に開催予定。

【意見交換での主なコメント】

- マニュアルに則りただ計画を策定するのではなく、酒田港のオリジナリティを取り入れた方が良い。
- 化石燃料以外としては水素やアンモニア以外にも、バイオマスや合成燃料などもある。時間軸、コスト比較等も踏まえ様々な燃料の活用の可能性を、幅広く検討することが重要である。また、各燃料の製造過程でのCO2排出にも着目しながら検討する必要がある。
- 削減目標においては吸収量も踏まえて設定する必要がある。また、CO2排出量が過小評価になっているように感じる。排出量の算出方法を明確にして、現実をきちんと共有した上で、削減計画を検討すべき。
- 実証試験レベルでは合成燃料の製造が可能となっている。合成燃料を導入する計画の有無や導入方法、研究の最新情報などについて、情報提供いただきたい。
- 弊社は対象区域外の事業所だが、新工場を今作っていてカーボンニュートラルの取り組みを進めている。こういった計画も酒田港のCNP計画として含めてもいいのではないかと。また、酒田の防風林などの緑化事業による吸収量も酒田港の特色として含めてもいいのではないかと。
- 事業者としては計画の先にあるカーボンニュートラルに向けたプロセスに関心がある。資料中では計画を策定することが目的となっているように見える

ため、この協議会の目的や立ち位置、将来に向けての関わり方を明確にしてほしい。

- 水素の導入については、企業の設備投資には限界があるため、県環境エネルギー部が主体となって動いてほしい。
- 計画を策定するのであれば実効性のある計画を立てることが重要である。絵に描いた餅にならないように水素の調達方法等も併せて検討すべき。またアンモニアの保安対策など新エネルギーの取り扱いに関する情報収集・情報提供をお願いしたい。
- 予め本計画でのシンボリックなプロジェクトを検討しておいた方が、ヒアリングの対象企業やヒアリングのポイントがしぼれるのではないか。
- 現実的に山形県、酒田市、地域の事業者がどういう方向性を志向し取り組んでいくのかということを議論することが重要。水素アンモニアに固執するのではなく、合成燃料やバイオマス燃料、他のバイオマスも含めてその地域のオリジナリティを踏まえて酒田港で何ができるのかに焦点を当てて議論するといいいのではないか。
- 酒田のオリジナリティというお話もあったが、結果として地域振興というところに繋がっていくというのがまず一つのオリジナリティになるのではないか。そういう視点を踏まえて将来の目標を描きながらフィージビリティの高い計画にしていければと思う。